

第82回大野市介護保険運営協議会概要

日時：令和8年3月23日（月）午後7時～8時

場所：結とびあ2階 201号室

1. 開会

委員交代

大野市民生委員児童委員協議会、長谷川俊基 委員

2. 会長あいさつ

3. 議題

(1) 大野市の今後の高齢者施策の参考資料とする高齢者の実態調査結果について【資料1】

概要：事務局より資料1に基づき、次期第10期介護保険事業計画および市認知症施策推進計画策定に向けたアンケート調査「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」および「在宅介護実態調査」の回答結果について説明。

—資料1 質疑応答—

【委員】

憩いの場や各種会合への参加状況について「参加していない」または無回答の方が多
い。実態も同様と感じる。高齢者の生活においては、何らかの形で外に出ることが重
要であり、家にこもらず外出することが非常に大切であると考え。今後の介護予防
の観点から、高齢者が外に出る機会を積極的に設けてほしいと思う。

→【事務局】

通いの場については、本市の総合計画においても目標の一つとして位置付けており、
高齢者の外出や交流が介護予防に効果があることから、取組を進めているところであ
る。現在、市内社会福祉法人に委託し、通いの場の創出を進めており、参加者も増え
てきている。今後も、各団体の協力を得ながら、取組を推進していきたい。

【委員】

在宅で介護している方の年齢構成を見ると、70代・80代が非常に多い結果となっ
ている。今後は介護の担い手減少や独居高齢者の増加により、「8050問題」のような厳
しい状況がさらに進むと見込まれる。

地域の見守りについては、認知症カフェの参加者が増加しており、意識の高まりが感
じられる。一方で、行政だけの対応には限界があるため、市内の介護施設に在籍す
る介護福祉士やヘルパー等の専門人材を地域で活用していくことも一つの方策である

と考える。

→ **【事務局】**

ご提案に感謝する。現場経験者から学びたい介護者は多く、事前に話を聞く機会の有無は大きな差につながると考えている。

地域で専門人材が活動することは有意義であり、今後の取組の参考としたい。また、次期計画の策定に向けた聞き取りの際にも、こうした点についてご意見を伺えればと考えている。引き続きよろしく願います。

【委員】

アンケートから、介護保険制度開始当初と比べ状況の変化を感じる。障害者福祉で進んだノーマライゼーションのように、認知症施策でも地域での見守りや参加を促す仕組みが重要である。高齢者や認知症の方の社会参加を促すことで、介護予防につながる施策が考えられる。特に冬季の移動制限も踏まえ、障害者施策を参考にした支援を検討してほしい。

→ **【事務局】**

認知症の方の増加に伴い状況は変化している。以前に比べ理解も進み、認知症カフェ等への参加も広がっている。参加しやすい仕組みづくりについては、福祉課と連携しながら検討していきたい。

4. 報告事項

(1) **大野市介護保険条例の一部改正について【資料2】**

概要：事務局より、大野市介護保険条例の改正について説明。税制改正により保険料収入の減少が見込まれるため、事業運営への影響を避ける目的で、令和8年度は従前の控除を用いて保険料を算定する特例措置を設けること等を説明。

—資料2 質疑応答—

【委員】

基金の活用については

→ **【事務局】**

今回の保険料算定の特例措置は税制改正に伴う全国的な対応であるため、基金の緊急的な取り崩しは行わず、現状を維持する。

(2) **介護サービス事業所の指定更新等について【資料3】**

概要：事務局より資料3に基づき、介護サービス事業所の指定状況を報告。

—質疑なし—

5. その他

【事務局】

来年度のスケジュールについて案内。

来年度5月に第1回計画策定委員会を開催する予定である。その後は2～3か月に1回のペースで開催し、来年度は計4回程度の開催を予定している。

—全体事項 質疑応答—

【委員】

「中学校区」という表現について、中学校の統廃合などで中学校が減っていく中、この呼び方はそのまま維持されるのか。

→ 【事務局】

第9期計画期間中は現行の区分である「中学校区」を維持する。

6. 閉会あいさつ

●会議資料

資料1：大野市の今後の高齢者施策の参考資料とする高齢者の実態調査結果について

資料2：大野市介護保険条例の一部改正について

資料3：介護サービス事業所の指定更新等について